



岸和田市郷土文化室（自然資料館（自然史担当）・郷土史担当・文化財担当）

平成 20 年 3 月 12 日

## 身近な海「大阪湾」を学ぶための新教材

風間 美穂

きしわだ自然資料館では、本年度に独立行政法人科学技術振興機構による平成 19 年度地域科学技術理解増進活動推進事業 科学館開発支援を受けて、大阪湾に関する教材を制作しました。これらは、当館が実施するさまざまな活動で使用するために開発したのですが、専門家でなくても活用できるように配慮してありますので、学校でも利用可能だと考えています。そこで今回は、この事業で作成した教材について紹介します。

### 1. 映像教材「大阪湾シリーズ」（DVD・VHSとも貸出可能）

「大阪湾の生き物たち（20 分）」：大阪府南部の干潟に生息するカニ類や貝類、岬町沖の海底で見られる藻場（海藻の森）にいる魚類や貝類など、湾内の多彩な生物を紹介しています。大阪湾というと、汚れた海というイメージがあるかもしれませんが、この映像教材では、まだまだ残されている大阪湾の美しい姿を見ることができます。

「大阪湾の環境（20 分）」：大阪湾岸にある磯や干潟、砂浜などの環境を紹介するとともに、赤潮や青潮など、人間活動により引き起こされている環境問題を紹介します。特に、釣り場付近の海底に沈むゴミや青潮のときに魚が苦しんでいるようすは、私たちの活動が大阪湾の生物に与える悪影響を直接目にする事ができるという点で、貴重な映像です。

「大阪湾の産業・漁業（15 分）」：湾内で行われている漁業のようすを、漁協や研究機関などの協力を得て映像化しました。海底にすむヒラメやシャコなどをとる底引き網漁業、チリメンジャコの原料になるカタクチイワシの稚魚をとる船びき網漁業、イワシやコノシロなどをとる巾着網漁業を中心に、チリメンジャコ加工のようすやその他の漁法についても紹介しています。

### 2. リーフレット「これがチリメンモンスターだ！」とポスター「チリメンモンスター」

当館ときしわだ自然友の会では、2004 年から近海産チリメンジャコを使った実習を行っています。加工場から直接購入した選別前のチリメンジャコを用意し、これに混入するカニやイカなどの生物（「チリメンモンスター」）を探することで、海的环境や生物について学ぶことができるというこの実習は、TVや新聞で

も取り上げられるなど、各方面から好評を得ています。リーフレットでは、チリメンジャコの漁獲や加工の方法、チリメンモンスターの生態などを、ポスターでは、実習で実際に観察できる可能性のある「チリメンモンスター」について、紹介しています。チリメンモンスター学習を実施する場合には、この教材を配布可能な場合がありますので、当館の学芸スタッフにご相談ください。



作成した映像教材（左）と冊子（右）

### 3. 冊子「波打ち際の草花」

大阪湾の波打ち際で見られるさまざまな植物を紹介した冊子です。写真を中心にした、絵本のような形式なので、小学校低学年でも楽しむことができるでしょう。巻末には、波打ち際の植物に関する詳しい解説も掲載していますので、先生方が教材として使うことも可能です。

### 4. 冊子「大阪湾の魚類」

大阪湾ではこれまでに、300種以上の魚類が確認されています。この冊子では、そのうちの約3分の1にあたる120種を美しい写真と解説により紹介しています。専門用語が多く、児童や生徒が読むにはすこし難しい内容ですが、大阪湾の魚類について深く学ぶためには格好の教材となることでしょう。

以上の資料のうち、映像教材以外のものについては、2008年4月以降に、岸和田市内の各小中学校へ1部ずつ配布する予定です。映像教材についても貸出を行いますので、これらの資料を授業でご活用いただき、ご意見やご感想などをお寄せください。

（かざまみほ：自然資料館学芸員）

## 濱田青陵（耕作）と岸和田



濱田青陵の肖像写真

山中 吾朗

日本考古学のパイオニア濱田青陵博士は、明治14（1881）年、南河内郡古市村（現在の羽曳野市古市）で父源十郎・母うめの長男として生まれました。濱田家は、もと岸和田藩の上級藩士家でしたが、当時、父は堺県の警察官として古市村に勤務していました。つまり、岸和田は濱田にとって生まれ故郷ではなく、本籍地にすぎなかったのですが、後年、濱田が教え子の一人である末永雅雄氏に、「僕は退官をすれば、郷里の岸和田へ帰って小学生に考古学を教えるのだ。」と語ったように、濱田にとって岸和田は「郷里」として深い愛着を感じていたようです。14歳の時に父が台湾総督府の官吏として台湾へ単身赴任するにあたり、家族は岸和田に住むことになりましたが、濱田が

岸和田に住んだのは生涯を通じてこの数年間のみでした。

濱田は岸和田在居中、泉州や河内、大和などの歴代天皇陵墓を巡拝してそのスケッチを残していますが、すでにこの頃から考古学への関心を抱き始めていたようです。15歳の時にそれらをまとめた「歴代天皇御陵図誌」の序文には、すでに「青陵」の号が使われています。

早稲田中学校から第三高等中学校（現在の京都大学総合人間学部）を経て、東京帝国大学史学科に進学しましたが、東京帝大で彼が専攻したのは西洋史でした。卒業論文のテーマは「希臘（ギリシャ）的美術の東漸を論ず」で、今では古代の東洋と西洋の間にシルクロードを通じた文化的交流があったことはよく知られていますが、当時としては画期的な国際的視野に立った美術史論でした。

一方、東京帝大在学中に、当時の考古学の権威であった坪井正五郎の「コロボックル説」を批判し、激しい論戦を交わしています。「コロボックル説」とは、日本の石器時代人はアイヌの伝説にある北海道の先住民コロボックルと同一人種と考える説です。当時、石器時代人をアイヌ人と見る学説もあり、こうした論戦にまだ一介の学生であった濱田も一石を投じていました。

濱田は明治42年、京都帝国大学の講師となり、大正2（1913）年から3年間、ヨーロッパへ留学しましたが、イギリスでピートリー、セイス両教授から考古学研究法を学びました。当時ヨーロッパでは、出土層の上下関係によって出土物の新古を判定したり、物の形や質の違いから新古を判定する方法が確立され、濱田はこの新しい考古学研究方法を学んで帰国し、京都帝大に日本で最初の考古学講座を開設しました。こうした研究方法は現在に到るまで考古学研究の基本となるもので、濱田が日本考古学の先駆者と言われる所以です。しかし、濱田の研究分野は狭い意味での考古学にとどまるものではなく、美術史や建築史、あるいはキリシタン墓碑の調査など幅広い分野に及んでいます。

昭和12（1937）年に濱田は京都帝大の総長に就任しましたが、翌年、体調を崩し、昭和13年7月、57歳で他界しました。

濱田青陵没後50年目にあたる昭和63年、岸和田市は朝日新聞社と共に濱田青陵賞を創設し、以来、毎年、考古学を中心に歴史学・美術史学・建築史など隣接分野も含めて顕著な業績をあげた中堅・若手の研究者を表彰し、昨年9月には第20回の授賞式を行いました。このたび、岸和田城において濱田青陵賞20周年記念企画展「濱田青陵一人と芸術一」を開催し、濱田青陵直筆の書簡や絵画作品等約25点を展示します（次ページ）。また、濱田青陵賞20周年記念シンポジウム「日本考古学の未来」も開催します（下記）。

（やまなかごろう：郷土文化室学芸員）

## 濱田青陵賞20周年記念シンポジウム「日本考古学の未来」

■日 時 3月22日（土）午後1時～4時

■会 場 岸和田市立文化会館（マドカホール）（荒木町）

記念講演：金関 恕氏（大阪府立弥生文化博物館館長）

パネラー：上原真人氏（京都大学大学院教授）

：小林達雄氏（國學院大學教授）

：武田佐知子氏（大阪大学副学長）

司 会：天野幸弘氏（朝日新聞社記者）

※参加希望者は、往復はがき（1枚1名）で下記までお申し込みください。先着500名・参加費無料

〒596-8510 岸和田市岸城町7-1 岸和田市教育委員会生涯学習部郷土文化室

## 濱田青陵賞 20 周年記念企画展「濱田青陵一人と芸術」

- 期 間 3月5日(水)～5月11日(日)
- 会 場 岸和田城天守閣 2階展示室
- 時 間 午前10時～午後5時(入場は4時まで)
- 入場料 大人300円 中学生以下無料
- 休場日 月曜日(4/7, 4/14, 5/5は開場)



濱田青陵筆「鷹図」

## Information

### ■自然資料館からのお知らせ■

#### ミニ企画展「私たちのたからもの ～きしわだ自然友の会 秘蔵コレクション大公開!～」

自然資料館の開館以前から、幅広く活動してきたきしわだ自然友の会のみなさんが、個人で所有されているたくさんの資料を一堂に会して展示しています!

- 会 期:2008年2月24日(日)～3月23日(日)
  - 時 間:午前10時～午後5時(入館は4時まで)
  - 場 所:自然資料館1階ホール ■入場料:無料
  - 休館日:毎週月曜日(祝日は開館),3月21日
  - 主 催:きしわだ自然友の会・きしわだ自然資料館
  - おもな内容:ゾウの歯大集合, 鉱物になった化石たち, 私の愛した漂着物など
- 期間中には会場内でミニ実習会を行います(午後2時～4時;先着順):
- 3/15, 22 チリメンモンスターをさがせ!
  - 3/16 くじらカレンダーを作ろう/大阪層群化石クリーニング
  - 3/20, 23 化石のレプリカを作ろう

#### 春休みセミナー「チリメンモンスターさがしと、大阪湾のおはなし」

大阪湾でとれたチリメンジャコから、カタクチイワシ以外の生き物(チリメンモンスター)をさがしましょう。大阪湾の自然や、漁業についてのお話も行います。

- 日 時:2008年3月22日(土)・23日(日)・29日(土)・

30日(日) 午後2時～4時

- 受 付:午後1時30分から先着順(事前申込不要)
- 講 師:当館およびきしわだ自然友の会スタッフ
- 定 員:4歳以上50名(小学生以下は保護者同伴で・4歳未満の幼児同伴はおことわりします)
- 場 所:きしわだ自然資料館1階ホール
- 主 催:きしわだ自然資料館

#### 2008年度きしわだ自然友の会の会員募集のご案内

きしわだ自然友の会は、きしわだ自然資料館と協力しながら活動している団体です。友の会員になると、年間を通し、自然に関するさまざまなイベントに参加できるなどの特典があります。今年度も化石や鉱物の採集会、動植物の観察会などの行事を企画しておりますので、ぜひこの機会に友の会にご入会ください。

- 年会費:個人会員2,000円(中学生以上の個人), 家族会員3,000円(一緒に住んでいる方全員), 特別会員10,000円
- 申込方法:郵便局で、必要事項(会員種別(個人/家族/特別)・住所・氏名(家族会員の場合は代表者名)・電話番号)を記入し、郵便振替口座00910:4-160323(加入者名:きしわだ自然友の会)に会費を振り込んでください。なお、きしわだ自然資料館で直接、入会することもできます。2008年度の会員証の発行は、4月末～5月(それ以降のお申し込みの場合は、随時)に行われます。
- お問い合わせ:下記

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

#### 連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館  
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101  
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp  
自然資料館ホームページ URL:  
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>  
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)

